

平成26年度第2回臨時理事会議事録

日時 平成26年6月21日 (土) 11:00～12:20
会場 都市センターホテル 3階 コスモスホールⅡ

出席者

理事長：小西 郁生

副理事長：岩下 光利、平松 祐司

理事：青木 大輔、綾部 琢哉、苛原 稔、榎本 隆之、大道 正英、加藤 聖子、吉川 史隆、
木村 正、工藤 美樹、久保田俊郎、小林 浩、杉山 徹、千石 一雄、竹下 俊行、竹田 省、
堂地 勉、藤井 知行、峯岸 敬、八重樫伸生、吉川 裕之、若槻 明彦

監事：落合 和徳、嘉村 敏治、吉村 泰典

第68回学術集会長：井坂 恵一

特任理事：海野 信也、齋藤 滋、種部 恭子、南 佐和子、宮城 悦子

理事会内委員長：水沼 英樹、水上 尚典

第67回学術集会プログラム委員長：岸 裕司

第68回学術集会プログラム委員長：伊東 宏絵

幹事長：澤 倫太郎

副幹事長：阪埜 浩司

幹事：上田 豊、梶山 広明、加藤 育民、北澤 正文、桑原 章、佐藤 豊実、佐藤 美紀子、
下平 和久、関根 正幸、高倉 聡、多賀谷 光、永瀬 智、西 洋孝、西ヶ谷 順子、増山 寿、
松村 謙臣、三好 博史、矢幡 秀昭、山下 隆博

議長：佐川 典正

副議長：内田 聡子、清水 幸子

弁護士：平岩 敬一

名誉会員：宇田川康博、神保 利春、中林 正雄

陪席：久具 宏司

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄、小山 圭子

11時00分 理事長、副理事長、常務理事、理事の総数25名のうち、24名が出席し（片淵秀隆理事は欠席）定足数に達したため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、落合和徳監事、嘉村敏治監事、吉村泰典監事の計4名を選任し、これを承認した。

冒頭、小西郁生理事長から、定時総会後のフォーラム「わが国の周産期医療の持続的発展のため産婦人科医勤務体制の抜本的改善を目指す」の開催目的についての説明があった。続いて今回新たに就任した佐藤美紀子幹事、三好博史幹事のあいさつがあった。

I. 業務担当常務理事報告

1) 総務（岩下光利副理事長）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向 なし

(2) 本日の総会、フォーラム、セミナー等について [資料:総務1]

(3) FIGO セミナーのため、第1回常務理事会は13時30分開始（於・ホテル椿山荘）とし、資料は当日配付としたい。

(4) 学生会員の取り扱いについて、各地方学会長あてに通知を送りたい。〔資料:総務2〕
本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(5) 運営委員会 IT化ワーキンググループの委員長、委員を以下の先生方をお願いしたい。

委員長：岩下光利先生

委員：佐藤豊実先生、澤倫太郎先生、阪埜浩司先生、矢幡秀昭先生、吉田幸洋先生

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(6) 核を入れ替えた卵子で受精卵を作成した研究を行った会員に対して、本会の処分を通知した。

〔資料:総務3〕

(7) 日本産科婦人科学会職員就業規則、同職員給与規定の改定を行いたい。これはこの規則・規定を労働基準法に則ったものとするための改定である。〔資料:総務4〕
本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

嘉村敏治監事「FIGO 誘致など国際的な業務が増えている。担当の事務局職員が対応しているが、他業務との兼務になっており、もう一度事務局内の業務分担を見直していただければと思う。」

岩下光利副理事長「事務局職員の業務が多忙になっていることや高齢化の問題があり、これへの対応は総務も関与しつつ事務局で検討していきたい。」

(8) 平成27年度（2015年度）日本産科婦人科学会日程表案について〔資料:総務5〕

本会の平成27年度会議日程についての原案を作成したので、今後各方面からご意見をいただき、9月の第2回理事会で決定したい。

(9) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①HPV ワクチン接種にかかる治療・相談体制案について〔資料:総務5-1、5-2〕

小西郁生理事長「HPV ワクチンの勧奨再開の目途は立っていないが、勧奨再開の場合に準備しておくことを整備しているところである。接種医師向けマニュアルは本日のセミナーおよび記者会見でも示したい。副反応に対しては、都道府県に窓口を設けて痛みのネットワークを作り専門家に迅速に見てもらえる体制を検討している。」

榎本隆之理事「産婦人科がワクチンを接種しているケースは全体の10%程度であり、内科や小児科を巻き込んだ対応が必要である。また厚生労働省の痛み研究班は慢性疼痛を中心に考えているが、マスコミ等で2,000件の副反応と報道されているものには慢性疼痛だけでなく失神などかなり広範なものが含まれている。そのため新潟県では大学や医師会などが連携してワクチン接種者に登録してもらい、副反応の状況を管理する体制を作ろうとしている。本会としても、診療科間の連携の上、副反応を網羅的に把握する仕組みを作りたいと思う。」

小西郁生理事長「接種医師向けマニュアルについては医師会に働きかけていくことになる。またおそらく厚生労働省から各都道府県に通達を出して副反応への対応を進めるはずである。現在、マスコミ等で主に問題になっているのは慢性疼痛なので、それについては特別に今回検討している体制を作ろうということである。」

榎本隆之理事「慢性疼痛を含め、様々なレベルの副反応を合わせてその頻度が高いとマスコミが伝えていっているので注意すべきである。」

小西郁生理事長「頻度は高くない、ということを冷静に発信していきたい。」

杉山徹理事「対応方針を厚生労働省から各都道府県に下ろして行く、というのは受け入れやすいが、対応策の検討において医師側には内科や小児科も入っているのか。」

小西郁生理事長「今は本会と厚生労働省と痛み研究班で体制を相談しているが、これができれば、医師会を通して内科や小児科に広げていく予定である。」

杉山徹理事「内科や小児科への展開も積極的に進めてほしい。」

② 卵巣腫瘍取扱規約の改定委員会の設置について

青木大輔理事「卵巣腫瘍の FIGO の進行期分類の変更に加えて WHO からの変更があったので、卵巣腫瘍取扱規約の改定が必要となった。卵巣腫瘍取扱規約の改定委員会の設置をお認めいただきたい。日本病理学会や日本婦人科腫瘍学会と連携して進めていきたい。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(ハ) 周産期委員会

① 周産期登録データベース仕様の使用許諾契約書について [資料:総務6]

この使用許諾契約書を、株式会社ミトラ、アトムメディカル株式会社、トイイツ株式会社と結びたい。使用料は1社あたり年額10万円である。

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

② 子宮収縮薬使用に関する同意書について

先日のガイドライン産科編指導者講習会において、会員から子宮収縮薬使用に関する説明・同意書を本会で作成してほしいとの要望があった。その同意書を作成したので、本会ホームページに掲載したい。[資料:総務7]

嘉村敏治監事「最近厚生労働省から、このような場合で説明したあとは質問を受けるようにという指導がある。説明書の最後の部分に質問の有無およびその内容と回答についての項を作っていただきたい。」

岩下光利副理事長「日本産婦人科医会や産科医療補償制度再発防止委員会でも同種のものを作っているの、それらとの整合性を取って周産期委員会で検討していただきたい。」

吉川裕之理事「この説明書の、陣痛誘発・促進についてどのように行うかの記述について、誤解を与えないように慎重な記述が必要ではないか。」

木村正理事「これはあくまでヒナ型として出すとよいのではないか。」

水上尚典委員長「この説明・同意書については、ご意見を受けて内容を練り直し、医会との整合性を付けて、誤解の生じない表現にして再度提出したい。」

本件については、説明・同意書案を再度提出していただくことになった。

③ 胎児 CT の適正な実施を目的とした日本産科婦人科学会との合同ワーキンググループの委員として、日本医学放射線学会から4名の推薦があった。[資料:総務8]

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

① ホルモン補充療法ガイドライン2012頒布状況について

6月10日現在、入金済8,016冊、校費支払のため後払希望 5冊。

②日本スポーツ振興センターと共同で、女性アスリートや指導者、非運動女性など 3,000 名に対して月経異常と障害発生についてのアンケート調査を行う研究をスタートさせたい。それにあたり、同センターと共同研究契約書を結びたい。[資料:総務 9]

久保田俊郎理事「アンケート数も多いため、文部科学省から 300 万円程度の補助を受けて進めることになった。調査では、月経異常に関する疲労骨折、月経前症候群の頻度、ピルの使用状況、指導者の意識などを調べることになる。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

③女性アスリート健康支援委員会が主催する産婦人科医師対象講習会の協力依頼を、各地方学会・医会長あてに、本会・医会連名で出したい。[資料:総務 10]

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

④「経口避妊薬および低用量 EP 配合剤の服用中に発生した静脈血栓塞栓症を重篤化させないための対策」を会員ホームページに掲載して意見を求めることとした。[資料:総務 11]

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

①厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課から、「健やか親子 21」の 14 年間の活動を振り返る活動実績調査依頼を受領した。提出したものをそのまま「母子保健レポート 2014」に掲載予定とのことであるが、本調査への対応についてご意見をいただきたい。[資料:総務 11-1]

木村正理事「本会は、妊婦健診を受けない人をなくす努力を常に行ってきたし、産科医療補償制度のスタートなど、この活動の主旨に沿った様々な動きを行い実現しているということ書いて提出するとよい。」

岩下光利副理事長「ぜひ木村先生に回答をお願いしたい。」

本件の対応は木村正理事にお願いすることになった。

(2) 文部科学省

①文部科学省研究振興局ライフサイエンス課から、同省ナショナルバイオリソースプロジェクト「研究用ヒト臍帯血幹細胞バンク」での研究用臍帯血の利用状況に関する調査への協力依頼があった。本会から会員あてに調査協力依頼のメールを配信することを求めている。[資料:総務 11-2]

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本乳がん検診精度管理中央機構

同機構には本会から大村峯夫先生と土橋一慶先生に理事として参加いただいているが、同機構内委員についても、大村先生に教育・研修委員、土橋先生に施設画像評価委員の重任依頼があった。本会としてもこれを了承したい。[資料:総務 12]

苛原稔理事「今回、大村峯夫先生と土橋一慶先生に委員をお願いするのは賛成だが、両先生には長

くこの職務をお願いしていることもあり、今回は若い方をお願いできるよう、準備を進めたい。」
本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(2) 日本卵子学会

同学会では本年4月に平成26年度生殖補助医療胚培養士資格認定審査、同更新審査、管理胚培養士資格認定審査、同更新審査を行い、それぞれ122名、116名、2名、1名を認定した旨の報告を受領した [資料:総務13]。

(3) 禁煙推進学術ネットワーク

日本血管外科学会から、禁煙推進学術ネットワークへの参加申請があり、本会はこれを了承した。

[IV. その他] 特になし

2) 会 計 (吉川史隆理事) 特になし

3) 学 術 (峯岸敬理事)

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催 なし

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第66回学術講演会プログラム委員会

(ロ) 第67回学術講演会プログラム委員会

(ハ) 第68回学術講演会プログラム委員会

4) 編 集 (藤井知行理事)

(1) 会議開催

8月27日日文誌編集会議とJOGR編集会議を開催する予定である。

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況: 2014年投稿分 (6月5日現在)

Accept	33 編
Reject	249 編
Withdrawn/Unsubmitted	121 編
Under Revision	29 編
Under Review	119 編
Pending	0 編
Expired	0 編
投稿数	551 編

(うち不正論文 16 編)

藤井知行理事「不正論文は5月以降、急激に減少している。」

5) 渉外 (木村正理事)

(1) 会議開催 なし

[FIGO 関係]

(1) FIGO-JSOG Educational Seminar ~Satellite Seminar of the 66th JSOG 2014

[資料: 渉外 1]

木村正理事「会場が200名入れるところなので、FIGO関係者50名に加え、本会関係で100名程度は出席していただきたいところである。そのため総会および関東連合総会のデスクに、本件の案内を置かせてもらうことにした。」

[AOFOG 関係]

(1) Fellowship 推薦について [資料: 渉外 2]

岩下光利副理事長「編集委員長を長くやっていた岡井崇先生を推薦してはどうか。」

藤井知行理事「AOFOGへの直接の貢献ということだと岡井先生がふさわしいと思う。」

岡井崇先生を推薦することについて、特に異議はなく全会一致で承認された。

(2) SSR-YGA 推薦について [資料: 渉外 3]

木村正理事「YGAは実質名誉だけで、いままで日本からは推薦していなかった。本会への貢献度とリーダーシップが推薦の要件だが、現地でのFellowshipもあるので、まずは本人の希望ベースとなる。ホームページで募集をかけ、落合和徳先生、古山将康先生、藤井知行先生と私で選考した上で推薦することにしたい。」

岩下光利副理事長「若い方を想定しているのか。」

木村正理事「40歳以下である。本会から行ってくださいというのには難しいプロジェクトなので希望者に応募してもらう形式になる。」

落合和徳監事「YGAは徐々に組織化されており、これを取った人が将来のAOFOGの執行部になって行くという動きがあるようで、国際的交流に興味のある若手にYGAになってもらう意味はある。」

藤井知行理事「現在の執行部もYGA出身者が入っており、ここでYGAを増やしておかないと将来、日本は編集委員長だけ、ということになりかねない。日本はAOFOGの最大の出資者なので、お金だけ取られて発言力がない、ということは避けるべきである。」

SSR-YGAの公募を行い、本会として推薦していくことについて、特に異議はなく全会一致で承認された。

[ACOG 関係]

(1) ACOG 62nd Annual Clinical Meeting に派遣の若手医師 6 名からの報告書について [資料回覧]

6) 社 保 (青木大輔理事)

(1) 会議開催 なし

(2) 産婦人科手術評価検討ワーキンググループ委員について [資料: 社保 1]

青木大輔理事「帝王切開点数の減額に端を発して、外保連のなかで手術委員会と実務委員会合同ワーキンググループが立ち上がるが、本会も社保委員会の中にワーキンググループを設置して、そこで方向性を決めた上でこの議論に参画していく体制としたい。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

7) 専門医制度 (吉川裕之理事)

(1) 日本専門医機構

同機構より、社員の推薦依頼があり、吉川裕之中央専門医制度委員長を「社員・産婦人科診療領域代表」として推薦した。[資料: 専門医 1]

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

吉川裕之理事「明日の中央専門医制度委員会では、日本専門医機構で準備すること、診療領域で準備すること、施設群で準備することについて説明する。例えば指導医認定料などの設定は学会ではなく診療領域のルールとなるが、移行については未定の部分も多く、いろいろなことが起こっても大丈夫なように前広に進めていく必要がある。」

苛原稔理事「専門医制度において臨床的な積み重ねを把握する仕組みはあるが、研究面の活動を把握する点が抜けているように思う。これによる医師レベルの低下が危惧される。専門医制度において研究面についても重視することを検討してほしい。」

吉川裕之理事「整備指針では連携施設に大学院が入っている。また専門医制度は医療だけでなく医学の発展に役立つ必要があると書かれており、基礎・臨床研究を研修プログラムに入れることになっている。ただその比率をどうするかは書かれていない。」

苛原稔理事「書かれていることが骨抜きにならないようにお願いしたい。」

小西郁生理事長「整備指針は日本専門医機構のバイブルのようなものであるが、今はその最終案の策定段階にあり、まだ不確定な要素がある。グループの形成についても地域を限定させると産婦人科では第 2 の医療崩壊が起こる可能性がある。整備指針の策定に関して、8 月までに様々な意見が出て着地点が見えてくると思うが、少なくとも世界最高の医療を実現している産婦人科に悪影響が出ないようにしたいと考えている。」

8) 倫理委員会 (苛原稔委員長)

(1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成 26 年 5 月 31 日)

- ① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録: 52 研究
- ② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録: 591 施設
- ③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録: 590 施設
- ④ 顕微授精に関する登録: 534 施設
- ⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録: 15 施設

- (2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について [資料：倫理1]
6月9日現在申請400例〔承認349例、非承認7例、審査対象外22例、取り下げ3例、照会15例、審査中4例〕（承認349例のうち9例は条件付）

(3) 会議開催

- ①7月25日に「第3回PGSに関する小委員会」を開催する予定である。
②8月19日に「平成26年度第2回着床前診断に関する審査小委員会」を開催する予定である。
③9月3日に「平成26年度第3回倫理委員会」を開催する予定である。

9) 教育（八重樫伸生理事）

(1) 会議開催 なし

(2) 書籍頒布状況

電子版(iOS版並びにAndroid版タブレット端末専用)：6月10日現在

必修知識2013単体	234
用語集単体	88
必修知識2013+用語集	184
合計	506

書籍版：6月10日現在

	入金済み(冊)	校費等後払い(冊)
産婦人科研修の必修知識2013	2,109	3
用語集・用語解説集改訂第3版	2,263	4
若手のための産婦人科プラクティス	2,434	18
専門医筆記試験に向けた例題と解説集2014	389	5

(3) 用語集・用語解説集について

①女性医学分野委員増員について

取りまとめ役の高松 潔先生等のご意向により、東京大学・平池 修先生と藤田保健衛生大学・西尾 永司先生を追加委嘱したい。

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

②用語集・用語解説集のデータベース化について [資料：教育1]

八重樫伸生理事「用語集・用語解説集の改訂にあたり、データベース化を進める必要が生じてきた。これには81万円ほどかかるが、一度これを済ませると今後の改訂は簡便になる。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

③用語集・用語解説集編集委員の追加委嘱について

日本婦人科腫瘍学会の推薦により、九州がんセンター 有吉和也先生を追加委嘱したい。

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

10) 地方連絡委員会（平松祐司副理事長） 特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (加藤聖子委員長)

(1) 会議開催 なし

(2) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告 [資料：広報 1]

(3) ホームページアクセス状況について [資料：広報 2]

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報 3]

2) 未来ビジョン委員会 (平松祐司委員長)

(1) 全国医局長 Plus One 会議について

平松祐司委員長「この会議のアンケートはまとまったが、未来ビジョン委員会で内容を協議した上、理事会にご報告したい。」

(2) 女性の健康手帳について

平松祐司委員長「7月、8月に編集委員会を開き、9月に仕上げる予定なので、ご協力をお願いしたい。」

(3) 新しいプロモーションサイトについて [資料：未来ビジョン 2]

平松祐司委員長「インフォメーショングラフィックスについては、様々な意見をいただいた。それを踏まえて修正を入れて周産期と生殖・内分泌の部分を完成させ、ヒューマンプラスと合わせてサマースクールで見ていただくことにしたい。またインフォメーショングラフィックスは絵と数字を見る仕掛けとしてナレーションを入れずに進めることになった。」

3) 震災対策・復興委員会 (岩下光利委員長)

(1) 災害対策マニュアルの最終チェックを進めている。

岩下光利委員長「まず500部印刷して、学会の先生方や行政、他学会に配布したい。また福島支援の医師派遣については、総会後に各大学に依頼をお送りするので、今回もよろしくお願ひしたい。」

4) 診療ガイドライン運営委員会 (岩下光利学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」頒布状況について (6月10日現在)

書籍版：5,817冊

書籍版+ID/PW付き：2,968冊

電子版ダウンロード：911件

(2) 産科編評価委員会 (海野信也委員長) 特になし

(3) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2014」頒布状況について (6月10日現在)

書籍版：4,393冊

書籍版+ID/PW付き：2,688冊

電子版ダウンロード：839件

(4) 婦人科外来編評価委員会 (峯岸 敬委員長) 特になし

(5) 産科編初版10,000冊のうち約8,800冊、婦人科外来編初版8,000冊のうち約7,100冊頒布したの

で、各書籍 5,000 冊の増刷を行うこととした。なお初版の誤植等については、再版ならびに電子版では修正を加えている。電子版については購入者の再ダウンロードは可能である。また学会ホームページにも修正箇所の掲載を依頼した。

5) コンプライアンス委員会 (工藤美樹委員長) 特になし

6) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

- (1) [周産期医療の広場] の研修施設検索地図に、今般新たに作成された「日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設」の地図を追加するため、日本産科婦人科内視鏡学会に協力依頼を提出した。

[資料：医療改革 1]

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (片渕秀隆委員長欠席につき、小西郁生理事長)

- (1) 会議開催

9月18日に第2回男女共同参画・女性の健康週間委員会を開催の予定である。

- (2) 日本産科婦人科学会フォーラム「産婦人科医のQOL向上をめざしてー集約化、交代制、男女共同参画ー」について

8) 若手育成委員会 (齋藤滋委員長)

- (1) 会議開催

6月13日にサマースクール若手委員打合せ会を開催した。

7月11日にサマースクール若手委員打合せ会ならびに実習講習会、

7月18日にサマースクール腫瘍分野打合せ会を開催する予定である。

- (2) 産婦人科サマースクールに関連して

【登録状況】

参加種別	: 申込者数
医学部学生 (5年生)	: 110
医学部学生 (6年生)	: 56
初期研修医 (1年目)	: 96
初期研修医 (2年目)	: 130
その他	: 3
参加合計	: 395名

齋藤滋委員長「会場の定員等から判断して参加者の上限は350名になるが、現時点で400名を超える応募となる見込みである。全員受け入れることも検討したが、実技を考えると難しいとのことで、今回希望が多かった学生5年生の中から、また複数の申込のあった施設からお断りをしてよいのか、ご意見をいただきたい。」

藤井知行理事「こちらから断ると何もしないよりも悪い方向に振れることがある。これは避けたい。」
岩下光利副理事長「実技については今でも一人当たりの時間が短く、これ以上増えると参加者からの不満が出かねない状況である。」

藤井知行理事「そうすると今回は6年生を優先して、お断りする5年生には来年は確実に参加できることを保証してあげてはどうか。」

平松祐司副理事長「人数は絞るべきである。先着順で考えてはどうか。」

小西郁生理事長「残念だが今回は断らざるをえないようだ。5年生を減らして来年の優先参加を保証することで対応したい。」

齋藤滋委員長「各大学と連絡を取り、そこで一次審査をお願いして進めていきたい。」

(3) 日本医学会と日本医師会は昨年度に引き続き、女性医師支援、特に女性医師のキャリア掲載・継続の支援を目的にした「平成26年度医学生、研修医等をサポートするための会」を各学会と共催することとし、本会にも開催依頼を送付してきた。 [資料:若手育成1]

9) 臨床研究審査委員会 (水沼英樹委員長) 特になし

10) 医療安全推進委員会 (竹田省委員長)

(1) 日本医療安全調査機構より6月24日に開催される定時社員総会の開催案内を受領した。竹田省委員長が出席予定である。 [資料:医療安全1]

11) 公益事業推進委員会 (竹下俊行委員長) 特になし

12) 情報管理委員会 (久保田俊郎委員長) 特になし

13) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会 (井坂恵一委員長)

(1) 会議開催

9月19日に第2回婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会を開催の予定である。

(2) 日本内視鏡外科学会へ本会「婦人科悪性腫瘍に対するロボット支援下手術に関する指針」の変更について連絡した。

III. 平成26年度定時総会運営について

(1) 代議員からの質問・要望事項 [資料:総会1]

IV. その他 なし

以上